

授業実践の振り返り 補習授業校名：デトロイトりんご会補習授業校 指導者： 廣川眞子 授業実施：2022 年 10 月 1 日
 学年・教科：中三国語 (光村図書) 単元名：俳句を作って楽しもう クラス生徒数：22 名

時	活動	成果・子どもたちの様子	備考
1 2	教科書「俳句の可能性」の学習 * 俳句の基本的きまりと 5 つの俳句についてを、教科書の記述をたどりながら確認する。 * 俳句の世界に触れる、感動や言葉の伝え方（省略の美や事象への視点の向け方に触れる）を講義・発問形式で進める。 * グループで割り当てられた俳句について話し合いまとめ、発表する。20 分間準備。 いつ、どこで、だれが、どのように、どうした（どう感じた）、この俳句の特徴、簡単なイラスト（または、簡単に俳句の読まれた情景を別の言葉で表す、など）等を交え、発表する準備	* 学習の初めに「最終型」（この単元で完成する作品＝自作俳句）短冊への清書例を提示することで、見通しを持たせた。 * 俳句の決まり事等については、やや単調な説明となってしまった。「季語」「有季定型」「歳時記」「切れ字」「自由律俳句」「無季俳句」など語句の定着への支援が必要。 * 発表の役割（俳句を読む、内容を発表する、内容を白板に書く、言葉やイラストを書く）を決め、一人一役担当することによって、学習に参加した意識を持つことができた。 * 発表を漠然と聞くのではなく、「俳句の可能性ノート」プリント季語、季節、切れ字の有無や表現技巧、内容を書き留めるもの）を用意した。「作品の中で気に入ったものを一つ選び、三行で感想」の項目には、欄いっぱいに書きこむ生徒もあり、クラスメートの発表を通して、俳句を身近に感じる事ができた。 * 三行感想＝「この作品（教科書の 5 つの俳句）の中で気に入ったものを一つ選び、三行で感想をまとめよう。」 * 15 名提出。	* 「心づもり」や何を目標にしていくか、を繰り返し学習者に伝える必要性は重要。 * 既習単元の提示（一年次の「空を見上げて」の連句）を通して、単元が学年が上がるとともに深まっていくことを意識させた。（指導の重層化） * 「有季定型」「自由律俳句」「無季俳句」などなじみが薄い語句への配慮も必要。 * グループは席の近い者同士 4 人を無作為に構成を指示。 * 話し合いをすべき項目を常に PPT で白板に投影。 * 毎時間、授業の足跡（授業ノート、感想などの提出物）を残すことで、週一回の授業を次週へつなげていく。 * 「俳句の可能性ノート」プリントの評価基準。基本事項が書きとれているか、三行感想では、具体的な「気に入った点」が記入してあれば目標達成とする

	備を行う。 *各グループの発表を聞く。講師の補足、生徒からの質問を受け付ける。 *発表を聞きながら、「俳句の可能性ノート」への記入。 *授業のまとめとして上記プリントの「三行感想」を仕上げ、提出。		
3 4	教科書「俳句を味わう」の学習 *本文の指名音読を行い、それぞれの俳句を簡単に説明、発問し、内容に親しみを持つ。 *9句の音読を通し、一行ほどの概要（季語、季節、切れ字、メモ）を板書していく。（「俳句を味わう 授業プリント」） *グループ学習 3人のグループを作り、9句の中から気に入った俳句について意見を交換する。	*一句ずつ音読することで、生徒が学習の内容とともに進んでいる、という意識が持てた。 *毎週、グループ活動や意見交換を行っているので、スムーズに活動へ入っている。 *この単元に限らず、自作したプリントの空欄書き込みに生徒から質問が出る。例えば、「『（ ）が内容である。』には何を書けばいいんですか。」など。→年間の最初に「鑑賞文の体裁」のサンプルを提示した方がよいだろうか。また、定型化することで書くことの妨げにならないか、を今後検討の余地あり。 *空欄埋め込み式だったので、提出した 14 名全員が簡単な鑑賞文を完成させることができた。 *簡単な鑑賞文を完成させることで、「俳句に表現されている季節や情景、思いをとらえる」ことができた。また、この活動が、自分で創作する際の「どのように作るか」のステップになった。	*今回も講師の説明、発問はやや単調だったが、限られた時間に多くの俳句を提示することで、生徒に俳句の内容のバリエーションの多さに気付いてほしい、という意図があった。 *前週はグループでの発表が主であったが、今回は最終型の創作に向けて、「個」で取り組む時間も意識して取り入れた。 *この2週の間、授業プリントを提出できなかった生徒や、

	（「俳句を味わう 授業プリント」に数行書き込める欄）。10 分。 ＊話し合いの後、各自簡単な鑑賞文の作成。書式は「「俳句を味わう 授業プリント」。」）		欠席者への支援の手立てが薄かったのが反省事項。 ＊プリント前半の「概要の書き込み」の多さに驚き、やる気消失か。
5	「俳句を作って楽しもう」の学習 ＊創作俳句の構想を練る。 ＊構想を高めるための例や写真の提示をし、何を表現するか的心づもりをする。 ＊歳時記集めのグループ学習 ＊4人グループで、俳句にしたい文、イメージをグループで集める。春夏秋冬すべてについて、グループで自由に言葉をあげたり、まとめたりする。（「創作俳句のステップ」プリント） ＊グループで集めた言葉について、一つ季節を選んで発表する。	＊秋には「さんま」、冬には「大みそか」と伝統的な日本の風物を挙げたり、夏は「バーベキュー」、秋は「パンプキン」など、アメリカならではの季節感を挙げたりするグループもあった。 ＊和気あいあいと楽しみながら四季の言葉を考えていた。 ＊ほかのグループの発表を聞きながら、「あれもある」、「なるほど」と、発想を楽しんでいた。 ＊6グループ、合計19人がプリントを提出。	＊午前中、期末テストが行われたため、授業は1時間となった。 ＊前時2週のプリントの提出がなかった生徒も話し合いに参加していた。 ＊グループメンバーが仲の良い者同士であると、活動にも積極的になれる。授業の目標の設定と活動への参加の仕方について、どのようにバランスをとって一人一人の表現活動を充実したものにしていくかの今後の検討が必要。 ＊次週の「俳句創作学習のルール」を提示。①ひとりひとりが季節感や思いを言葉で伝えよう（季語）②クラスメートと言葉

			を選ぶ、工夫するプロセスを高めあおう。単元最初の「最終型」の提示とともに心づもりが大切。
6 7	創作俳句活動（研究授業当日） ＊前時に集めた言葉、イメージを PPT スライドですべて投影し、学習の足跡を確認する。 ＊グループで連句を作る。15分。グループは席順が近い者同士で、無作為に指名。 ＊ひとりひとり、必ず五または七に参加する。白い長い紙に発句、二句...結句を書き、テープでつなげる。 ＊結果発表（リーダーを決め、リーダーは全体の内容や工夫したところなどを述べる。全員、前に立ち、自分の部分をよむ。）	＊常に生徒たちはクラスメートの発表に関心があるので、それを生かし、活動にスムーズに入ることができた。 ＊「それぞれの部分をつなげる」というスリリングな面が生徒は楽しかったようである。 ＊前時までの俳人による作品の学習があったからこそ、「色彩」「擬音語」「一句の中で時間の流れを感じさせる」等、工夫が見られたグループ作品があった。 例： セミ鳴く日 暗き夜空に 散る花火 <視点の転換・聴覚から視覚への転換> 咲く桜 時が過ぎれば 散りゆきて <時間の流れの読み込み> ＊一方で言葉を練りだしたが、写実に終わる作品もあった。 外寒く 夏の変わり目 紅葉が 池にうつりて カラスがあそぶ クリスマス 太ったリスと 冬休み 店の前 色とりどりの パンプキン ＊単元のまとめとして、全員が意欲的に作品を完成させていた。出席者21人全員が創作俳句を完成させた。	＊研究授業全体の流れも大切と考え、2時間を研究授業とした。 ＊アメリカ生まれ、アメリカ育ちの生徒だけのグループの作品。「太ったリス ナッツ食べ過ぎて 冬眠の 準備でいっぱい 春まで寝ちゃう」。 発表の際、次の句へ続けるように続きの言葉を省いては（＝「食べ過ぎて」の連用形の「て」を省く）、の発問に生徒は気づかなかった。理論的な点を説明する加減の難しいところであった。 ＊学習活動計画検討会で質問のあった「自由律俳句への対応」も考慮し、今回は必ず「季語」を入れることにした。

* 全グループの連句の良いところ、気を付けた方がいいところの意見を交換し、講師が白板にまとめる。 （「創作俳句 十月一日」プリントへの記入。） * 創作俳句の制作。プリント（「創作俳句 十月一日」プリント「どんなことが印象的だったか、言葉探し＝できるだけたくさん、俳句に使えるような言葉を書きだそう、の記入。） 15分。 * 今日の「連句」、写真を用意してきた生徒はその写真を使い俳句を創作する。 * 過年度の「先輩の例」（見つけたり撮ったりした写真についての創作俳句）を提示。 * 「俳句を短冊に書く」。体裁（三つ折り半字がかり、用紙、歴史的背景をPPTにて説明。ペンで丁寧に清書する。 * 制作作品の発表。一人一	* この研究をお受けした時点で「特に授業活動に支援が必要な生徒」として2名を想定した。活動の結果、1名は創作発表まで取り組み、単元の活動目標「季語、言葉を選ぶ、工夫するプロセス」を経験習得できた。残念ながらもう1名は研究授業時に欠席し、修得内容を確認できなかった。	* 集団の力、というものを改めて感じた。思ったより早く創作し終わった生徒が多く、次週に行う予定だった発表を、時間合わせに一人一人前に出て作品を発表した。 * 授業後の本校内での振り返りに佐々木教頭先生から「連句はイメージ通りにできたか、創作俳句の推敲の活動は」のご質問を受けた。 また、同様の内容を財団の振り返り（授業研究会）で本校校長からご指摘のあった。「中3としての語彙力」に拙いものがあることを今後の後続単元「奥の細道」で生かしていきたい。 * 中3はミシガン州の現地校では9または10年生に当たり、ハイスクールである。加えて、現地校のスポーツクラブ活動も始まり、アメリカの高校生活に積極的に取り組んでいる生徒は現地校の活動を優先せざるを得ない。補習校との両立に大変な努力を要する。そのような中
--	---	--

	人前に出て、各自白板に短冊を貼り、句と概要を発表。	* 10/8 の授業時に〈俳句チャンピオンの決定〉とし、別紙にまとめた作品の中から三つ選んでもらった。選ぶ観点は「俳句創作学習のルール」。 ①ひとりひとりが季節感や思いを言葉で伝えよう（季語） ②クラスメートと言葉を選ぶ、工夫するプロセスを高めあおう。 * 結果 第一位 玄人名人賞 寒き朝 紅葉見えずに 息白し 第二位 名人賞 君がいて 桜の下で 告白だ 第三位 俳人賞 パンプキン 笑顔でいっぱい かわいいな 猫が踏む 落ち葉の色は 尾の色だ せせらぎの 清き緑の 川の音 * 学級通信（保護者にも配信）、教室前廊下にも結果を掲示し、投票結果には生徒からも納得の声が聞かれた。	で、「支援を要するが欠席した生徒」に対する対応には議論が必要と感じた。 * 授業研究会で「よい言葉に出会うためには」へ質疑の焦点が移った。講師が図書館等を利用して「きれいな言葉の本を生徒に提示」「感動する心を忘れない、日常を大切に」、「批評の目」等のアドバイスをいただいた。日々の問いかけが大切、とあらためて実感。 * 教科担任、学級担任でもあるので、生徒の活動については「学級通信」を通してお伝えしている。こまめなお知らせが、教科指導とは別の学級活動へのご協力にも肯定的なご支援につながっている。
伸ばせた力、子どもの変化、保護者の反応など * 合計 7 時間配当で取り組んだ単元で、日ごろ授業の足跡としてワークシートの提出がなかった生徒も欠席せず毎週の授業のステップバイステップで臨めば、最終型の「創作俳句」を完成しクラスで発表できる、という完成まで取り組める力を得ることができた。一方、支援を要する生徒が欠席した場合のサポートは今後の本校の課題である。 * 決まりごとの多い韻文でも読解の量（多くの俳句に触れる＝教科書掲載俳句 5+9＝合計 14 句）を多くし、その分生徒に「グループや個人で考える」時間と活			

動を保障すると「自分ごと」として解を見出そうとすることにつながる。

＊毎時間にその本時のねらいに沿った「ワークシート」を用意し、スモールステップを踏むことで生徒が一連の学習活動に参加し、結果を残せた。

＊指導クラスが中学部３年なので、保護者からの直接の反応はないが、教科担任＝学級担任として、指導結果を「学級通信」でお知らせすることで、ご理解やご協力につながっていると思う。

所感

＊授業後の本校内での振り返り、授業研究会でもご意見のあった通り、「活動やいかに言語を高めていくか」は「推敲、練り直し」が必要と感じた。特にアメリカ生活の長い生徒は感覚的に四季の表現を「パンプキン」等で完結してしまう。今回担当した学年は中学部３年生である。もう一步踏み込むためには中学部入学から３年間を見通した言語活動、特に今年度から映像化へと移行した学校文集に代わる「言語・表現活動」を再保障する必要がある。関連単元「奥の細道」で推敲の効果を取り上げたい。

＊アクティブラーニングを全単元で実現できるように、「言葉の習得とその深化」の保障。そのためには場に合ったグループ構成とルール（２人ほどの対人で完結できる活動、３－４人で十分に意見交換の役割を果たせる活動）など「自分ごととして取り組めるサイズ」を常に講師が提示する必要がある。そして、日本語力が弱い生徒同士でも活動が完結できる普遍的な「活動の観点」を明示していかなければならない。今回の指導では「クラスで確認し合った季語の使用」、「クラスメートと言葉を選ぶ、工夫するプロセス」としてクラス内で発表のあった例を参考にする、でどの生徒も参考例にそって活動した。生徒が出した例への助言の質も大切になっていく。

＊言語の四技能のうち（聞く、読む、話す、書く）で、今回の指導単元は「書く（表現する）」を最終目的とする最も高度なものだった。日本語以前に「文化・風習」等を考えつつ、「表現する」下地として「中３の学年相当の経験に基づいた言葉」を日ごろの読書とその発表で高めていくことが必要と思う。

<作品結果例>

